

政策研究センター リサーチ・プロジェクト 成果報告書

提出日: 2021/2/26

申請者(リーダー): 氏名 飯尾潤 職名 教授

リサーチ・プロジェクト名:

(和文) 歴史的政府資料のAIを活用した情報公開促進の試行

(英文) An AI Approach to Historical Government Records and Information Disclosure

期間(yyyy/mm/dd): 2020/10/1 から 2021/3/31 1年間

共同研究者: 氏名 職名 所属機関・部局名 (備考)

共同研究者1 増山幹高 教授 政策研究大学院大学

共同研究者2

共同研究者3

共同研究者4

共同研究者5

リサーチ・プロジェクトの目的

本研究では、政府の提供する政策情報を誰もが効率的に入手する方策を検証する試みとして、図書館やインターネットから入手できない歴史的な政府資料の保存・整備・電子化・データベース化を試み、文字認識が容易でない歴史的な政府資料について機械学習や深層学習を駆使してAI的な情報公開の促進を試みる。具体的には、社団法人政府資料等普及調査会が紙媒体でのみ保存してきた政府関係機関による未公開の報告書等を電子化・データベース化する。

研究成果の概要(800字程度) ※新型コロナウイルスの影響により、予定どおりの実施が難しかった場合にはその理由:

社団法人政府資料等普及調査会(以下、調査会)は1971年4月に内閣府の所管のもと設立され、政府等の発行する資料の収集、普及調査・研究等を実施していたが、2013年3月に解散となった。30万点に及ぶ資料の保管と政府資料データベースの維持は緊急の課題であり、所蔵資料の書誌情報「政府資料アブストラクト」を電子化し、紙媒体資料についての電子化と一般公開の方策について検討を進めてきた。このように長期間にわたって紙媒体でのみ記録・保存されてきた府省庁の報告書など政策関連資料を電子化・データベース化することは、政策情報の体系化、需要供給の包括的検証という意味において貴重な試みであり、政策担当者や一般市民、研究者にとって実践的、学術的価値の大きなものである。

本研究は、これらのうち国会図書館やWebで確認されなかった資料について電子化・データベース化を進め、大学の資料保存の経費削減に貢献するとともに、これまで情報開示請求データベースシステムや文書検索システムで開発・運用してきた検索・分析機能を応用し、文字認識が容易でない歴史的な政府資料について機械学習や深層学習を駆使してAI的な情報公開の促進を試みる。

具体的には、情報開示請求データベースシステムにおいて一般公開してきた検索・分析機能を応用し、また学術誌の「文書検索システム」として試行的に開発し、政治学の「レヴァイアサン」掲載論文をデータベース化し、各論文の文字情報から内容検索だけでなく、ワードクラウドなどをテキスト分析する機能を応用していく。2020年度の成果としては、同様のデータベースを調査会の資料用に開発・設置し、未公開の報告書等ですでに電子化されている18件について試行的にデータベース化し、テキスト分析が可能となることを確認している。

研究成果:

[別紙\(\(成果報告書\(研究成果一覧\)\)に記入](#)

その他、研究成果として特記すべき事項:

※政策研究センターのリサーチ・アシスタント(RA)雇用に採択されたプロジェクトについては、RAの具体的な仕事内容を記載してください。また、RAを雇用したことによって得られた研究成果(例:RA氏名が記載された①論文発表、学会発表など。予定も含む。)があれば必ず記載してください。

(全ての項目含め、1頁以内で記述してください。)

成果報告書(研究成果一覧)

研究成果一覧:

(発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。別紙一覧でも可。)

(必要に応じて適宜追加)

論文((学術雑誌(総合雑誌(文藝春秋、中央公論、世界)を含む。))等掲載)

※査読付きのものは、査読欄に「1」を入れてください。

※共著論文の場合には、ご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。

※国際共著とは、異なる国を拠点とする複数の研究者による共著論文を意味します。

著者	<sup>0</sup> 件 標題	雑誌名 /所収図書 of 編者・図書 名・出版者等	巻・号 /章・節	<sup>件</sup> 発行年	開始 ペー ジ	終了 ペー ジ	<sup>0</sup> 査読 (有=1)	<sup>0</sup> 国際共 著 (yes=1)	DOI	<sup>0</sup> オープン アクセス (yes=1)
1										
2										
3										
4										
5										

図書:

※共著の場合にはご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。

※書籍の一部分のみを執筆した場合には論文の区分に含めてください。

著者・編者	<sup>0</sup> 件 図書名	出版社	発行年月	総ページ数
1				
2				
3				
4				
5				

口頭報告・学会発表等:

※査読付きの学会論文集は「論文の区分」で報告し、査読なしの学会論文集は「学会発表の区分」で報告してください。

※招待講演については、学会等名の後に(招待講演)と明記してください。

報告者等	<sup>0</sup> 件 論題	学会・研究会名等	報告年月日	開催場所
1				
2				
3				
4				
5				